



天野桂子さん
(ダイニング・バー「ズーイン」オーナー)

「まもれシモキタ！行政訴訟」には、さまざまな人が原告として参加しています。今回は、南口にあるピュアロード（新栄商店会）のいっかくでダイニング・バーを営んでおられる天野さんにお話をうかがいました。

私にとっての 「下北沢」

——下北沢にお店を出した経緯は？
ひとことと言ってしまうと、一目ぼれかな。このお店は今年の9月で25周年なんですけど、はじめは中野区南台でやっていました。そこが手狭になったので2軒目を出したと思います、いろんな街を探しました。それこそ銀座や新橋から、つくば学園都市とか八王子、千歳烏山など一年くらいかけてあちこち歩き回ったんです。そんな時に下北沢にも来て…。

その時、「ああ、私もここに交ぜてもらいたいなあ」と思ったの。——この商店街ではフリーマーケットも開催されているのですが？
私がこの店をはじめたばかりの頃は、このあたりはまだ夜のライトもなく暗いし、南口のオマケのような場所だったの。けれど30軒くらいのお店が集まって、ここに独立の商店街を作ろうということになったの。

たった90メートルほどの小道とその周りの路地に沿ったお店だけだけど、コンパクトな集まりなので、まとまりがいい。フリーマーケットも、途中で誰かが言ったところからはじまって、今では三ヶ月に一度やっています。規模が小さいと、アイデアが形になりやすいのね。——天野さんにとって下北沢はどんな街ですか？
私は料理人ですが家庭料理しか作らないんです。この店をはじめた何年かたった頃、お料理を作るのがつらい時期があった。料理屋料理や宴会料理のなかの、独特の闘争心のような、社会に対して物申すというようなものが突き刺さってくるものがあつて…。

そんなある日、旧知の先生とおしゃべりする機会があったの。先生は女流の邦楽笛方で、大変な名手なんだけど、ご家庭もあり、お子さんもいらつしやるのね。先生の芸談をうかがっている時に、「これだ！」と思うものがあつた。

まもれシモキタ！通信

まもれシモキタ！
行政訴訟の会

〒155-0031
世田谷区北沢2-9-19
植松第一ビル201
コモン法律事務所内

TEL: 03-5452-2015
FAX: 03-5452-2016
URL:
www.shimokita-
action.net

目次

- 1 インタビュー 私にとっての下北沢
- 3 「まもれシモキタ説明会」開催
- 3 第4回口頭弁論が開かれます
- 3 お仲間紹介
- 3 ボランティア募集！
- 4 下北沢でいま起きていること

その時は、手はじめに「ハム、ベーコンは自家製にしよう！」と思ったの。

こういうことは手間ヒマかかるんだけど、自分のベースを作るというか、無理がない。つまり、自分の感覚の根源に嘘をつかない。嘘をついちゃうと、ア

ンテナが弱くなっちゃうでしょ。この時期に私は「良質の家庭料理を作るぞ」と決めたの。

そして、私はそんな風にこれまで生きてきたのだけど、そんな私にとつて下北沢という街は、とても居やすいし、棘がささってこないのね。

——補助54号線や再開発計画は、どのよう

に知りましたか？
そういう話になってくると、耳にしたり読んだりして、断片的には知っていました。「セイブ・ザ・下北沢」など複数の団体が活動しはじめていることも認知はしていたんですが、しばらくそ

の状態のままでした。それが、計画の事業認可の採決が近づいた時、自分がこの断片的な情報しか知らないままに事態が進んでいくことが、恐ろしいと思った。だから小田急線の資料や区の広報を集めたりして、自分で調べはじめたんです。

私は、街は時代とともに動いていないと腐っちゃうと思ってるんです。それにその時々、風俗を反映していかない、面白くない。かといってシモキタは、こんな計画を持ち出さなきゃならない場所ではないと思った。

——訴訟の会に参加された経緯は？

「私には、時間もないし、力もないし……」って傍観してるのが、だんだん嫌になってきたんです。ちゃんと自分の意思を明らかにしたいと思うようになりました。それでどこかのグループに参加しようと思ひ、自分の日常生活や環境と照らしつ

て、訴訟の会に決めました。ところが、どうやって連絡したらいいかわからなくて……

そんな時、商業者協議会の署名が回ってきました。それで商協の代表者が「Lady Jane」の

大木さん（茶沢通りのジャズバー・オーナー）だと知り、大木さんとは旧知の間柄だったのでこれ幸い、Lady Janeに飛んでいって開口一番「私、訴訟の会に入りたいんだけど、どうしたらいい？」と言ったんです。

私は、過ごしやすい街を作っていこうと活動している人たちが尊敬しているんです。市民運動や、南口メインストリートの落書き消しをやってらっしゃる人たちもそう。反対とか賛成とかではなく、「より良い街を求めよう」という部分は共通している。その共通の思いを持った活動の互いの長所が共鳴しあって、大きな力になっていく、いいと思っています。事が起こっている時

に指をくわえて見てたってしょうがない。自分の日常生活をキープしつつも、街の動きに関わりをきちんと持つこと。そういうのって、ひいては自分の人生に跳ね返ってくるから。目をそらしちゃダメだわって思ったの。

——下北沢でいま起こっていることをどう考えますか？

これって、シモキタの街だけじゃなく、日本中のいろんな地域でも同じだと思っ

ています。一日に一回は、うきうきしたり、生き生きしていたり、幸せだと思ふ瞬間があったりする。そういう生き方が根づいている街。そういう大人たちを見て、子どもたちもそういう風に育つような街。そういう街が必要だと思うし、個人として、かくありたいと考えています。時間はかかっても、そんな風に、歯車がくると噛みあう時がくるんじゃないかと思っ

ています。私は、いま下北沢で起こっていることは、反対運動じゃなくて、

文化運動だと捉えています。一つの文化運動としての資質がすごく高いと踏んでるんです。街には、長所もあれば欠点もある。いまはそれを問い直すいい機会じゃないですか。

こういうことを考えていく持久力、幸せに生きていきたいという、そういう情熱を持久していく自分のつくり方や、組織のつくり方が、物ごとを自分の目で見て、自分の心で考えていくことにつながっていると思います。

（聞き手 小林みのり）

●天野桂子（あまの けいこ）



世田谷区代沢 2 丁目在住。料理人になる前は、劇団の演出部に在籍。照明の仕事に携わり、下北沢へは仕事のほか、よく飲みに来ていた。1982 年より下北沢南口にてお店をはじめる。日曜日の昼に料理教室を開いている。

キッチンに溢れる季節たち。素材に勝るコックはいません。優しい味を引き出すコツは毎日をうきうきと暮らすことです。

——天野桂子レシピ集より

「説明会」開催します

ご存知のとおり、昨年10月18日、東京都により「補助54号線第1期工事区間」の事業認可が下されました。

事業認可に先立ち、私たち「ままれシモキタ！行政訴訟の会」は、街のよさを損なう大規模再開発の見直しを求め、昨年9月に53名で提訴しました。その後、今年4月9日に第二次提訴を行ない、現在は90名の原告団として活動をしています。

来る7月10日、再開発計画の全

貌と、私たちが提起しています訴訟についての「説明会」を開催します。まだ再開発計画についてよくご存知ないという方、これから街がどうなっていくのか不安を感じているという方も多くいらっしゃると思います。

ご近所の方、ご友人にもお声をかけいただき、ぜひお集まりください。

あたらしい街づくりの仲間になつてくださる方募集！

日時：7月10日（火） 19時～

場所：北沢タウンホール11階研修室

第4回 口頭弁論のお知らせ

昨年の9月に「ままれシモキタ！行政訴訟」を提訴して以来、これまでに3回の口頭弁論が終了しました。毎回100名近い方が傍聴に参加し、法廷は異例の盛り上がり（？）を見せています。

次回の口頭弁論では、いよいよ都市計画の具体的違法性に迫ってゆきます。

住民の関心の高さを裁判所にアピールするためにも、ぜひともみなさま傍聴にご参加ください。どなたでも傍聴できます。

【第4回口頭弁論】

日時：6月25日（月）14時10～

場所：東京地方裁判所、103号大
法廷（これまでと同じ）

アクセス：東京メトロ丸の内・日比谷・千代田線「霞が関駅」A1出口から徒歩1分、有楽町線「桜田門駅」5番出口から徒歩約3分。

※法廷終了後に、報告集会が開かれます。裁判の説明や、質問タイムもごさいますので、こちらもぜひご参加ください。

場所：弁護士会館5階（法廷の隣の建物）502EF

下北沢問題に取り組むお仲間紹介

現在、私たち「ままれシモキタ！行政訴訟の会」を含め、4つのグループが下北沢で活動しています。

●「セイブ・ザ・下北沢」 (Save the 下北沢)

地域住民やシモキタが好きな人たちが集まり、パレードや音楽イベント、署名活動などを行なう。シモキタ問題を伝える「かわらばん」を発行しています。

<http://www.stsk.net>

(ネット署名あり)

ポスティング・ボランティア募集！

みなさまにお届けしている、こちらの通信は、裁判の原告や、活動を応援してくださるボランティアの方々により地域のお宅へポスティングさせていただいております。

ポスティングの範囲は、下北沢駅を中心に、北は井の頭通り、西は環七、南は北沢緑道、東は東大に囲まれた範囲です。

住所でいうと、北沢1、2、3、4丁目、代沢2、3、5丁目、代田2、5、6丁目、大原1丁目の一部となります。

●「下北沢フォーラム」

都市計画家やジャーナリストらが専門家の目からシモキタ問題にアプローチし、専門家らの都への意見書や、代替案の取りまとめなどを行なっています。

<http://shimokitazawa-forum.net>

●「下北沢商業者協議会（略して、しようきょう）」

シモキタで商業を営む立場からこの問題に発言し、賛同店は500店舗を上回る。このほど広報誌「SIMOKITA VOICE」を発行。

<http://www.shimokita-sk.org>

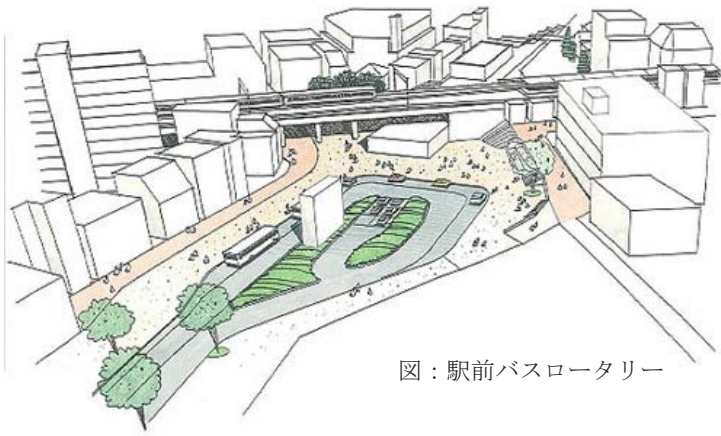
この範囲でも、すべてのお宅へはお届けできない状態です。活動をご理解くださり、ご協力いただけるようでしたら、ポスティングをお手伝いしていただくと、とても助かります。ウォーキングなど、運動にもなりますよ。（だいご）



ポスティング中に出会いました。日向ぼっこしてます。代田5丁目にて。

下北沢でいま起きていること

60年前の都市計画道路が、なぜいま？



図：駅前バスロータリー

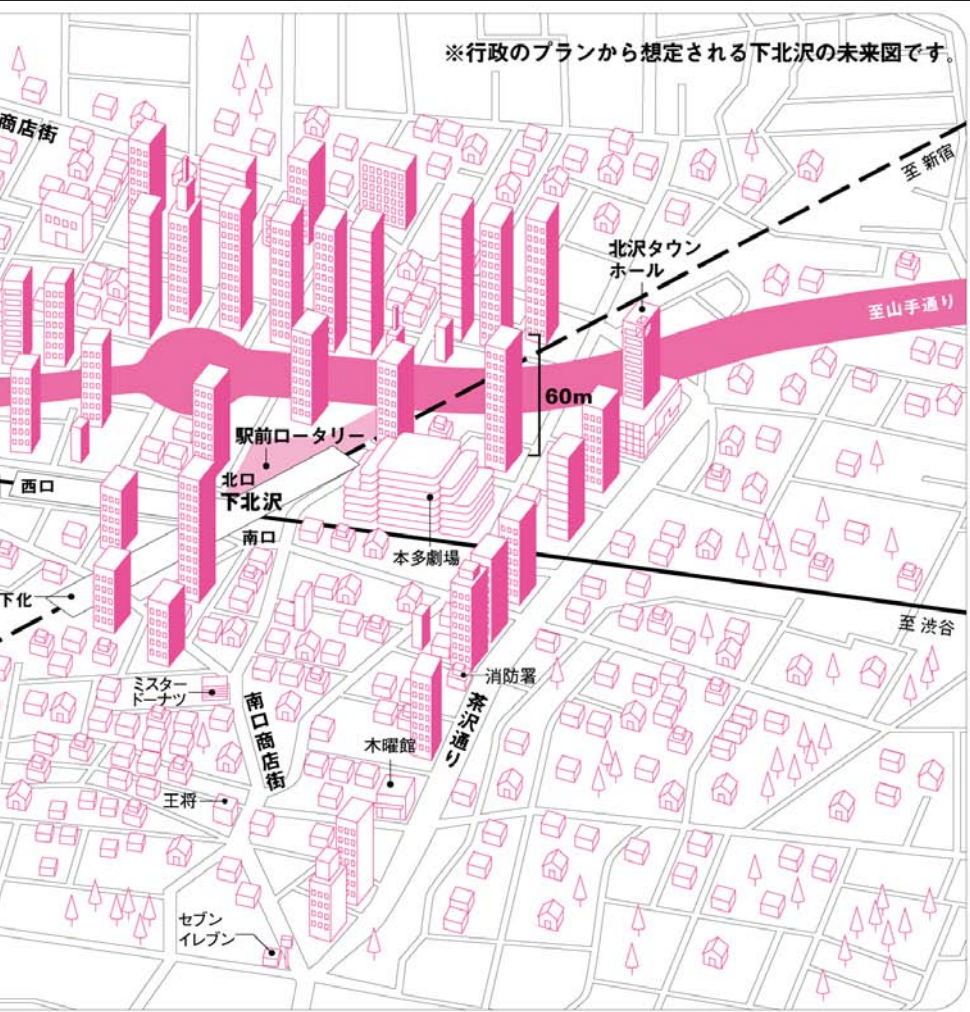
歩ける街「下北沢」が、ビルと車の街に・・・

現在、下北沢では、大規模な再開発事業が動き出そうとしていま。まず、店舗が連なる駅の北口の中心を分断してしまう幅26メートル（環七と同じ幅）の補助54号線。そして、駅前には巨大なバスロータリー。さらに高さ最大60メートル（17階程度）ま

るのビルを建てられるように誘導する「地区計画」。この3つの計画をセットにして、下北沢を「ミニ渋谷」のような街にしようというのが行政の計画です。行政は最近になって道路が必要なのは、「防災のため」ということを盛んに言うようになりまし。しかし何人

もの都市計画や交通工学の専門家らが主張しているように、道路をつくることは必ずしも防災にとつて効果的ではありません。またこの道路が計画されている地域は、そもそも東京都の防災危険地域からも外れています。行政が行おうとしているのは、防災を言い訳にした、「無駄な公共事業」街壊し」でしかありません。

ある試算によれば、補助54号線の工事費用(第一期工区のみ)は、下北沢周辺住民の人口で割った場合、一人当たり約100万円にもなるといわれています。また、「セイブ・ザ・下北沢」や「下北沢フォーラム」などの市民グループが大規模開発に代わる「代替案」を提案していますが、行政はそれを検討することなく事業着手に向けて突き進んでいます。



※行政のプランから想定される下北沢の未来図です。

補助54号線、駅前バスロータリー、高層ビルの誘導という、3つの計画をセットにした再開発事業です。

編集後記：先日、「下北沢商業者協議会」のみなさんの勉強会に参加させていただきました。街はどうなっていくのか、多くの人に問題を伝えるにはどうしたらよいか、下北沢のよさとは何か、、、みなさん真剣に議論されていました。「無関心な人がけっこう多くて、正直きつい」という声もありました。それでも、何かをここから起こしていこうという熱気がそこにはあって、参加していて元気が出ました。(木村)